＃1830384　7tm STIパワービンディング2
＃1830386　7tm STIパワーツアービンディング2　　（解放機構付きビンディング）

取り付け説明書及びオーナーズマニュアル　※販売店様は必ずお客様にお渡しください。
ご使用前にこの説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。その後は大切に保存し、必要な時にご覧ください。

絵表示について
この説明書では、製品を正しくお使いいただき、ご使用者や周囲の方々への危害や所有物の損壊を未然に防止するために下記のような絵表示を使用しています。内容をよくご理解の上、本文をお読みください。

⚠警告　この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

I. スキー販売店様向けの取り付け説明書

⚠警告

解放機構はプラスチックブーツと組み合わせた場合にのみ適切に作用します。ソフトレザーブーツを使用した場合は衝突／転倒の際に解放可能な適性トルクが伝わらない可能性が有ります。

1．取り付け

1．1 スキービンディングの取付け位置
ビンディングのスキー板への取り付け位置に関しては、必ずスキーメーカーの推奨に従って下さい。
スキー板へのビンディング位置決めには原則として2種類の方法があります。（図Ａ）
ａ）ビンディング取り付け位置の印があるスキー板：
多くのスキーメーカーはスキー板の表面にブーツセンターのライン、もしくは３ピンのラインといったビンディングの取り付け位置をマークしています。
テレマーク用スキーの マークの中には、「3pin line」と記されている線があるものもあり、そこにはブーツのつま先部分の3ﾋﾟﾝの穴がくるように設定されていますので、マークがどちらの位置のものであるか注意して決定して下さい。
ｂ）ビンディング取り付け位置の印のないスキー板：
ブーツのつま先から１５ｍｍ手前（３ピン位置）をスキー板のコードセンター（スキーの実寸の1/2を両端から計測した点と点の中間を言う）に合わせて下さい。この方法はツインチップのスキーには対応しません。

幅が特に広いスキー板へも取り付け可能です。 ７ｔｍのテンプレート紙をドリル穴の位置合わせに使用して下さい。
７ｔｍスキービンディングはペアのスキーでのみ使用する為に開発されています。７ｔｍスキービンディングを違う用途で使用したり、モノスキーやスノーボードに取り付けたりした場合は全ての保証請求や補償請求は無効となります。

ビンディング取り付け可能なブーツサイズ
センチサイズ： 約２４－３１．５㎝
ＵＫサイズ： 約４．５－１２．５
ユーロサイズ： 約３７－４８

［７ｔｍ取付け用ジグ］
対応するフレームサイズに注意して下さい。（取付け用ジグ上に穴があいています）（図Ｂ）
・ジグの留め金が完全に開くまで両側の解放レバーを回して下さい。ジグをスキー板へ水平に置き、ゲージを締めて下さい。
・取付け用ジグの位置調整
取り付け位置の印があるスキー板の場合、
ブーツの中央部もしくはブーツに印が付いている場合はその印を取付け用ジグのｃｍ目盛に合わせて下さい。そのジグの目盛がスキー板の取り付け位置の印に合わさる様に調整して下さい。もしくは、３ピンラインが記されているスキーの場合は取付け用ジグの３ピンラインとスキーの３ピンラインを合わせてください。
取り付け位置の印の無いスキー板の場合、または特に指定の無いスキー板の場合、スキーメーカーにお問い合わせください。

注意:キャップシェイプスキーや側面にテーパーが付いているスキー板の場合、ジグがずれないように取り扱いにより一層の注意が必要です。

[型紙]
型紙は取付け用ジグが利用できない場合のオプションです。（図Ｃ）
・型紙の位置調整は、接着テープで型紙をスキーに貼り付け、上記取付け用ジグと同じ要領で位置決めを行ってください。ドリル穴は正確な場所に開ける必要がありますので、この作業は十分注意して行って下さい。

１．２ ネジ穴開け
スキービンディングの取り付けに関してはＤＩＮ／ＩＳＯによって平準化されています。これらの基準ではドリル穴の深さを８ｍｍ±０．５ｍｍもしくは９ｍｍ±０．５ｍｍに規定しています。
スキーの規格では、スキービンディングを取り付ける必要がある場所だけでなく、ネジの引き抜きに対する耐性に関しても定められています。一部のスキー板ではビンディング取り付け用のプレートがスキー板の深い位置に埋め込まれていますので通常のビンディングネジではプレートに達せず、ビンディングがスキー板にしっかりと固定されません。この場合はさらに長い取り付けネジが必要となります。状況を問わず、いかなる場合でもメーカーによる個別の指示に従って下さい。
ドリル穴の直径は４．１ｍｍです。スキービンディング専用のドリルのみを使用して下さい。どのような場合でもスキーメーカーからの個別仕様書に従って下さい。刃が鈍くなったドリルは使用しないで下さい。
・常に一定の力でドリルをまっすぐに保ちながら穴を開けて下さい。 取付け用ジグのドリル穴にドリルを傾けて入れないで下さい。
・寸法通りの深さでそれぞれの穴を開けて下さい。そうする事によってスキー板はダメージを受ける事無く、ビンディングは適切な位置に固定されます。
・穴開けが終われば取付け用ジグを外して下さい。スキー板を裏返し、滑走面を手で叩いて穴の削り屑を取り除いて下さい。

１．３ ドリルにて開けた穴を使用してのスキー板へのビンディングの取り付け
全てのネジはしっかりと締める必要がありますが、締めすぎにご注意下さい。電動ドライバーを使用する場合は、ネジの締めすぎを防ぐため、締め付けトルクを最低値に設定して下さい。最後は必ず手で締めて下さい。
ネジが長すぎてスキー板の滑走面へ押出してしまいそうな場合は滑走面と面合わせをして短いネジを使用するかネジを丁寧に削って下さい。
接着剤はスキービンディングのネジの潤滑剤として使用する事が出来ます。潤滑剤として必要な場合やスキーメーカーが推奨する場合のみ、接着剤を使用して下さい。
最初に14.スキーリーシュ用リングをビンディングの前部分の下側の左右両方へ取り付け、12.前部ビンディング取り付けネジで仮締めして下さい。（図Ｄ，Ｈ）
11.ホールディングブロックを13.後部ビンディング取り付け用ネジで仮締めして下さい。
全てのネジ12、13を手で均等に締めて下さい。
ブーツソールへの雪の付着を防ぐには、上記で使用した接着剤を後部の2つのネジ゛に塗り、25.凍結防止キャップをそれらのネジの上に被せてください。
　ビンディングのスキー板への取り付けが終われば、次にブーツホールディングユニットを取り付ける必要があります。（図Ｅ）
最後に全てのネジを再度チェックして下さい。ビンディングがスキー板に対して適切な配列で取り付けられている事を確かめて下さい。

インサートビスを使用してのスキー板へのビンディングの取り付け
・取り付けには別売りの#1830322　7tm. ビンディングアダプターが必要です。
・ネジM5×16をスキーのインサートに差し込み、ドライバーを使用し、手で締め付けてください。
・21.ライザープレート後部をビスM5×16で取り付けてください。
・ビンディングを1.3ビンディングの取り付けを参考に取り付け、ネジをドライバーを使用し、手で締め付けてください。

１．４ ライザープレート
オプションの20.ライザープレート 前部および21.後部を使用する場合は、最初にフロントベースプレートを22.取り付け用ネジで固定し、12.前部ビンディング取り付けネジを長めのネジへ交換してから項目１．３を参考に取り付けて下さい。

１．５ クライミングエイド
図L　に従って、取り付けて下さい。 必要に応じて好みの位置に調節して下さい。

１．６ スキーブレーキ
取り扱い説明書に記載のある取付け可能最大板幅（ビンディングの真下の板幅）にご注意下さい。

取付け：7tmビンディングを取り付ける前に、ブレーキレバーを図Mのようにビンディングの真下に設置して下さい。プラスチックフックが進行方向に対して後ろを向くように取り付けます。この点に注意して正しく設置して下さい。器具の損傷あるいはブレーキの利かない恐れがあります。

警告：7tmスキーブレーキはビンディング機構から開放されないとかかりません。かかとのレバーが緩い、もしくはブーツホールディングユニットがリリースハウジングに固定された状態では、ブレーキは効きません。ブレーキレバーが外れるのを防ぐために、セーフティストラップで固定してください。（図Ｎ）

1．7 テレマークスキーリーシュ
24.スキーリーシュは、14.スキーリーシュ用リングに 図Ｈを参照しながら取り付けて下さい。

1．8 テレマークセーフティーストラップ
ブレーキと関連して、セーフティストラップは図Ｎのように使用して下さい。予期せずブレーキレバーが開くのを防ぐためです。ストラップの端が余った場合は、図Ｎのようにストラップがゆるまないようにしっかり固定してください。もし、セーフティストラップが破損した場合

には、すぐに使用を中止し、お取り替えください。

2. ブーツのビンディングへの取り付け

・ビンディングをブーツの大きさに合わせて調整する場合は、2. ヒールファスナーを解除した状態で行って下さい。
・ブーツの爪先部を1. トゥーピースの奥までしっかり差し込み、4. ビンディング長さ調整ネジが回しやすいように6. スタンディングプレートを上げて、ブーツがビンディングにフィットするまで回して下さい。**図F**をご参照ください。
注意：特に小さいブーツをご使用になる場合は、図Gのように**3. ヒールファスナーバーを7. 標準取り付け位置から8. ショート取り付け位置へ変更されますと、よりスムーズにビンディングの長さ調節を行えます。**
図Fのように4. ビンディング長さ調整ネジの端が5. 圧力調整スケールの中央付近にあれば圧力は正常です。ビンディングから数回ブーツを出し入れしてブーツの爪先部がビンディングの爪先部にしっかりおさまっている事を確かめ、圧力が正常値になるまで調整して下さい。
注意：ブーツは規定の圧力を守って取り付けて下さい。圧力を上げ過ぎるとビンディングの可動部の寿命を縮める事につながります。
ソールの高さ調整はご使用のブーツが規格に適合している限り自動的に行なわれます。

3. ビンディング解放値調整

ビンディングの側方解放値は15. 解放値調整ネジによって“仮調整”し、16. 解放値調整スケールで確認する事が出来ます。
16. 解放値調整スケールの数値は片眼で真上（垂直位置）からご覧下さい。
解放圧力が“仮調整推奨値”になるように16. 解放値調整スケールで確認しながら調整ネジを回して下さい。

スキーショップの検査機器を用いて計測した調整トルクに基づいて“仮調整値”を再調整して下さい。必要に応じて15. 解放値調整ネジで仮調整から“本調整”の数値に直して下さい。

この測定した解放トルクと表示計器の設定は検査証明書に記入する必要があります。５. 取り付けと検査証明に関してをご参照ください。

3. 1 重量から解放値を決定する

１．まず表の１列目のスキーヤーの重量（荷物等も含める）と２列目の身長から適切なものを選びます。重量と身長が別々の行になる場合は値の低い方を選択して下さい。
２．表中のコードはタイプ１のスキーヤーに当てはまります。タイプ２のスキーヤーは重量・身長から選択した行の１行下、タイプ３のスキーヤーは２行下のコードを選択して下さい。
３．スキーヤーが５０歳以上の場合は１行上を選択して下さい。
４．１から３のステップを経て正しいコードを決定し（行が決定）、ブーツのソールの長さから列を選択します。選択した“ソールの長さ”と“コード”が交差する所が仮調整推奨値です。この数値になる様、解放値を調整して下さい。**重要**：交差した所に数値が存在しない場合は同じ行の１列右か１列左の値を推奨値とみなしてください。
例：体重７５ｋｇ、身長１７０ｃｍ、ブーツサイズ３２０mm、５５歳でタイプ２のスキーヤーの場合、スキーヤーコードは“K”で、対応する仮調整推奨値は５．００となります。

“スキーヤータイプ”の決定
下記を参考にご使用者自身で“スキーヤータイプ”を決定できます。このタイプ分けは専門知識とは一切関係ありません。その為、熟練したスキーヤーでも穏やかに滑る人は厳密にはタイプ２に分類されます。

タイプ１スキーヤー
・オーソドックスなスキーをする。
・遅めのスピードを好む。
・簡単で緩やかな傾斜を好む。
・通常の推奨解放値よりも低めの値を選ぶ。
・タイプ１を選ぶと平均よりも低めの解放値が出ます。その為、転倒の際に素早く反応しますが、スキービンディングが予期せず解放する可能性は高くなります。
・どのタイプか分からない初心者の場合はタイプ１を選んで下さい。

タイプ２スキーヤー
・平均的なスキーをする。
・様々なスピードで滑る。
・難易度の高いところも含めて様々な地形で滑る。
・１タイプでも３タイプにも区分できないスキーヤー。

タイプ３スキーヤー
・積極的なスキーをする。
・常に高速で滑る。
・急な難しい斜面を好む。
・タイプ３を選ぶと平均よりも高めの解放値が出ます。その為、転倒の際の反応は鈍いものの、スキービンディングが予期せずに解放する可能性は低くなります。

注意：ここに記載されている調整表は７ｔｍによって現在推奨されている唯一のものです。必ず７ｔｍの推奨する調整表に従ってビンディングの調整を行ってください。

3．2 検査機器を用いて解放トルクを測定する

組立て、調整、機能検査が適切に終われば**ＤＩＮ／ＩＳＯ　１１０８８**規格に適合したスキービンディング検査機器を用いてビンディングを検査する必要があります。

注意：検査機器メーカーの説明書に注意を払って下さい。
この検査によって調整後の解放値（単位はｄａＮｍ）が許容範囲内に入っているかどうか、結果をプリントアウトして確認して下さい。
ＤＩＮ／ＩＳＯ　１１０８８規格での解放値の許容範囲は±１５％です。しかしながら7tmでは±10%を推奨します。

調整後は必ず検査報告書を顧客に機能上問題の無いスキー板、ブーツ、ビンディングのシステムと共に渡して下さい。検査機器が検査報告書をプリントアウト出来ない場合も検査結果を紙に記録して下さい。解放値測定データのみでなく、５.1に記載のある項目のデータも追記して下さい。

4．問題解決の手順

側方解放装置と2. ヒールファスナーが適切に調整されている状態で以下の検査を行って下さい。
スキービンディング、スキー板、ブーツが目視検査の基準を満たしているかチェックして下さい。
注意：使用後のスキービンディングは、検査の前に必ず洗浄して下さい。

4．1 側方解放装置の機能性追加検査

側部の弾性と再中心出しの検査：
スキー板をしっかりと固定し、手かラバーハンマーでブーツの爪先の部分を叩いて下さい。爪先部分の側方解放装置は６－１０ｍｍ動く必要があります。ブーツは即座に中央部に戻らなければいけません。解放装置が１０ｍｍ以上横に動いた場合にビンディングは解放されます。これ以降の検査を進める前に解放装置を再装着してブーツをビンディングに入れ直して下さい。

装置が適切に作動する場合は
スキービンディング検査機器で解放値をチェックして下さい。

装置が適切に作動しない場合は
ゆっくりと、不完全に中央部に戻る場合：
・ブーツがＤＩＮ／ＩＳＯ規格に適合しているか、過度に摩耗していないかどうかチェックして下さい。必要に応じて交換して下さい。
・解放装置が過度の使用による磨耗あるいは損傷を受けていないかチェックして下さい。必要に応じて洗浄、補修、交換を行って下さい。
トゥーピース内でブーツが横滑りする場合：
・ビンディングの圧力が低すぎないかどうかチェックして下さい。必要に応じて4. ビンディング長さ調節ネジで再調整して下さい。
・潤滑剤がブーツや側方解放装置に過度に付着していないかチェックして下さい。接合部は全てきれいにして下さい。
・ブーツの形状が基準値を満たしているか、他のモデルのブーツと比較してチェックして下さい。
ネジがゆるんでいる場合：
ネジがなくなっていないか、締めすぎあるいはゆるんでいないかチェックして下さい。必要であれば修理、交換あるいは接着して下さい。

4．2 ヒールファスナー

ヒールファスナー内でブーツが滑る：
・ビンディングの圧力が低すぎないかどうかチェックして下さい。必要に応じて4. ビンディング長さ調節ネジで再調整して下さい。
・潤滑剤がブーツや側方解放装置に過度に付着していないかチェックして下さい。接合部は全てきれいにして下さい。
・ブーツのかかとの溝が十分な深さがあるかチェックしてください。必要に応じてナイフ、やすりなどの適切な研磨工具を使用して余分な素材を削り取って下さい。

5．取り付けと検査証明に関して

スキー専門店におきましては販売に際し、7tmスキービンディングの調整に関する適切なデータの正確かつ完全な記録を怠らない様ご注意ください。全ての検査報告書をコピーし、保管して下さい。

5．1 機能上問題の無いシステムであることを示す検査報告書をお客様へお渡しください

最終調整後は必ずお客様／スキーヤーに対して機能上問題の無いスキーブーツ用ビンディングのシステムであることを示す検査報告書のコピーをお渡し下さい。その際、以下の項目を調整表へ入力して下さい。
・使用者の名前
・年齢
・性別
・個々の“推奨仮調整解放値”と予想される解放トルク（単位はｄａＮｍ）
・スキーヤータイプ
・ブーツソールの長さ
・ブーツブランドとモデル名

・ビンディングブランドとモデル名
・スキーブランド、モデル名と長さ
・解放値再調整後にＤＩＮ／ＩＳＯ １１０８８に基づく検査機器から読み取った実際の解放トルク値（単位はｄａＮｍ）。左右両方のスキーに対する時計回りと反時計回りの数値を入力。
・最終的なビンディング（左右）の調整スケール値
・特記事項がある場合はその内容を明記
・お客様がこれらの使用説明書以外の加工を要請している場合はこれを証明するお客様の権利放棄のサイン
・検査、調整の日付

取扱説明書／期限付き保証書の引き渡し
・お客様にご購入のスキービンディングの取扱説明書と期限付き保証書を必ず渡して下さい。

5. 2 お客様への説明に関して
可能であれば下記の事項を直接お客様へ説明して下さい。お客様が未成年の場合はこの情報は両親や保護者へも提供されなければいけません。

ビンディングの着脱と再装着
ビンディングの着脱方法と解放部の再装着方法をお客様に対して販売店あるいはスキーを引き渡す際に実演で説明して下さい。
ビンディングの装着
・ブーツのソールに付着している雪や氷、ごみを取り除いて下さい。
・ブーツの爪先をビンディングの1. トゥーピースに差し込んで下さい。
・2. ヒールファスナー下部の突起をブーツのかかとのくぼみへ当て、手で2. ヒールファスナーを跳ね上げます。2. ヒールファスナーの突起がブーツのくぼみへしっかりはまり、2. ヒールファスナーがスキー板に対して垂直になっていることを確認して下さい。
ヒールファスナー解除
・ポール、ブーツ、もしくは手でヒールファスナーを開き、ブーツから外して下さい。
転倒、非常時のヒールファスナー解除
・ポールもしくは手でヒールファスナーを開いて下さい。
・深雪にはまり込んだ場合はブーツをねじってスキーから外して下さい。
解放部の再装着
・図Ｅを参考に、まずブーツを装着した1. トゥーピース先端のくぼみを10. ローラーカムの中央部に合わせます。次に1. トゥーピース後部の湾曲部が11. ホールディングブロックの湾曲部へ合うように踏み込みます。装着音が確認できるまでしっかりと踏み込んで下さい。
装置着脱の説明
・ブーツとビンディングのシステムをお客様へ実演説明して下さい。
・お客様へ解放値調整ネジの位置と解放値の個人値を説明して下さい。スキーヤーは常に自身の推奨仮調整解放値を把握している必要があります。
・顧客へロック機構の開閉方法を説明して下さい。
・装置の部品が基準に適合していない場合や過度に摩耗している場合、負傷の危険性が大きく増加する事を必ずスキーヤーに伝えて下さい。
・解放後の解放装置の再装着方法を説明して下さい。
・スキー板、ブーツ、ビンディング、もしくはそれらのシステムに何らかの異常が生じた時は必ず、すぐにスキー小売店の専門家へ相談するようスキーヤーへお伝えください。

メンテナンス
・ビンディングに泥、塩分、さびを付着させたままにしないようスキーヤーへ説明して下さい。
・毎シーズン初めもしくは６０日間の使用後どちらか早いほうのタイミングで、スキーブーツ用ビンディングのシステムの検査と再調整をスキー小売店の専門家へ依頼するよう、スキーヤーへ推奨して下さい。
・スキーヤーにＩＡＳのセルフ解放テストがどのようなものか説明して下さい。 ＩＡＳのセルフ解放テストは解放可能な衝撃があった際にビンディングが正確に機能する事を前提としてビンディングのねじり解放調整を行う事を認めています。

5. 3 検査証明書 及び／もしくは 調整カードへのスキーヤーの署名
・着脱と再装着の手順を正確に説明して下さい。
・スキーヤーが開放値に注意を払うようにして下さい。スキーヤーは調整値が調整カードに記載されている調整値と同一である事を確かめる必要があります。
・スキーヤーは契約書を読んだ上で、理解し、全ての特別権利放棄証書に同意する必要があります。
スキーヤーはスポーツの危険性を意識する必要があります。７ｔｍはその危険性を最低限に減らせるよう努力しています。しかしどのビンディングに関してもあらゆる状況下で解放可能であるという保証はありません。
スキーヤーが個人的に検査証明書もしくは調整カードに署名することによって販売が完了します。お客様が未成年の場合は書類はその保護者が署名する必要があります。

6. 期限付き保証

保証請求の対象になると考えられるスキービンディングや付属品は、欠陥と考えられる箇所を7tmが検査出来る様に、小売店はお客様から返品された製品を最低1年間は保管しておく必要があります。

7. 規格のガイドライン

スキー専門店におかれましては、使用する部品がＤＩＮ／ＩＳＯ １１０８８（以前のＤＩＮ ３２９２３）規格に適合しているかを確認してください。特定のスキーヤーの完成したスキー板、ブーツ、ビンディングのシステムの組換えや調整を行う必要がある際も事前に使用する部品規格に適合していることを確認してください。全ての部品はＤＩＮ／ＩＳＯ規格を満たしている必要があります。

7. 1 スキービンディング検査のガイドライン

全ての未使用の７ｔｍビンディングは正規のドイツ国内および国際規格（ＤＩＮ ＩＳＯ ９４６２，ＤＩＮ ＩＳＯ １１４８７）の基準を満たしています。
組立てや調整を行う前に、７ｔｍスキービンディングの目視検査を行って下さい。既に使用されたことのあるビンディングの場合は、特に念入りに行って下さい。
・解放値が個々のスキーヤー向けに調整されているか確認して下さい。
・表面の損傷：ブーツと接触する部分が摩耗していたり、目に見える損傷を受けていないことを確認して下さい。損傷のある部品は新しいものと交換して下さい。
・スキーブレーキ（オプション）：ひびや湾曲がないか、ブレーキが完全に戻るかを確かめて下さい。ブレーキを付けた状態でスキー板を地面と水平に置いた場合、ブレーキが板を支えられる必要があります。
・ネジ抜けがないか確かめて下さい。
・スケール：数値が読めるか、調整可能か確認して下さい。
・スキービンディングの可動部は全てきれいに保たなければいけません。汚れやさび、きしみが無いかどうか確かめて下さい。もしもビンディングが著しく汚れている場合は乾いた布か湿らせた布でふいて下さい。スキービンディングの洗浄に溶剤は使用しないで下さい。1. トゥーピースや2. ヒールファスナーへはシリコンやその他の潤滑剤を使用しないで下さい。損傷を受けた部品は交換して下さい。

7. 2 スキー板検査のガイドライン

多くのスキーはビンディングを取り付ける箇所には補強を施しています。スキー板の素材、デザイン、大きさには様々なものがありますのでスキービンディング取り付けの際はスキーメーカーの説明書に従って下さい。
取り付け穴の大きさや接着剤、位置決めに関してはスキーメーカーの推奨方法に従って下さい。ガイドラインがない場合は以下の推奨方法にしたがって下さい。
・正確なネジ穴の深さに関してはスキー板の厚みに注意して下さい。正しい方法で組立てを行うことで、ネジによるへこみやスキー板の塗装の剥離が起こる心配がありません。スキー板が薄すぎる場合はネジをスキーの横から見えるぐらいの状態でビンディングを一時的に取りつけて下さい。ネジによるへこみやスキー板の塗装の剥離が起こる可能性がある場合は、やや短めのネジを使用するか、ネジを削って下さい。
・スキー板の幅を確認して下さい。剥離やへこみが生じる可能性がありますのでスキー板のエッジがビンディングのネジと接触していないか確かめて下さい。
・補強プレートの追加や類似の補強器具について：スキーメーカーによってはスキー板の表面から３－６ｍｍ下に補強プレートを使用している場合があります。これらのプレートは剥離を防ぐため、完全にドリルが貫通している必要があります。

7. 3 ブーツのガイドライン

７ｔｍテレマークビンディングはブーツのソールからはほぼ独立しています。
この事実に関係なく、ブーツのビンディングへの固定の安全性を保証するためには設計における最低限の規格を満たしている必要があります。ＩＳＯ １１４９７でありＩＳＯ ６９５９などがその規格です。
これらの規格に適合したブーツのみを使用して下さい。
過度の使用によってブーツが擦り減っている場合は安全にビンディングに固定されるかどうか確認して下さい。
必要な解放値に調整できる場合のみ、子供のブーツに大人用のビンディングを使用する事が出来ます。

II. オーナーズマニュアル

8 機能の説明

７ｔｍのスキービンディングは高い品質と信頼性を誇る、使用者の使い勝手に優れた商品です。
７ｔｍの機能の基本理念は、当社の他商品で長期に渡って証明されています。

8. 1 リリース機能の概略

７ｔｍスキービンディングは側方解放機能を備えたテレマークスキー用ビンディングです。
更にその側方解放機構はブーツのラバーソールとビンディングの間の摩擦の影響を受ける事は有りません。解放力と保持力の巧みなコントロールのみでなく、この革新的なスキービンディングのカギとも言える強固な耐久性を備えています。そのため７ｔｍは耐重量と耐久性が最大限になるように設計されています。

ビンディングの装着

・ブーツのソールに付着している雪や氷、ごみを取り除いて下さい。
・ブーツの爪先をビンディングの1. トゥーピースに差し込んで下さい。
・2. ヒールファスナー下部の突起をブーツのかかとのくぼみへ当て、手で2. ヒールファスナーを跳ね上げます。2. ヒールファスナーの突起がブーツのくぼみへしっかりはまり、2. ヒールファスナーがスキー板に対して垂直になっていることを確認して下さい。

ビンディングからの取り外し

ポール、ブーツ、スキーもしくは手でヒールファスナーを開き、ブーツから外して下さい。

側方解放後のビンディング装着

図Ｅを参考に、まずブーツを装着した1. トゥーピース先端のくぼみを10. ローラーカムの中央部に合わせます。次に1. トゥーピース後部の湾曲部が11. ホールディングブロックの湾曲部へ合うように踏み込みます。装着音が確認できるまでしっかりと踏み込んで下さい。

8.2 7tmツアービンディングの特別な機能

ブーツの爪先部を曲げることなく登高できるのでエネルギーロスを大幅に減らすことができます。登高モードと滑降モードの切り替えは36. ロックレバーを操作して行ってください。

警告：36. ロックレバーは意図するモードに最後までしっかりとセットされていることをご確認ください。不意にビンディングが誤作動すると怪我や器具の破損の原因となることがあります。

8.3 7tmパワービンディングの特別な機能

新しい７ｔｍパワービンディングでは、ブーツをかかとから前方に押さえ込もうとするシステム（曲げたブーツがもとに戻ろうとするアクション）が飛躍的に向上しました。新たに設けた支点（パワーピンの位置）により以前の７ｔｍビンディングと比較して３０％以上の運動量とパフォーマンスを発揮します。
しかし、登高時や深雪の滑降においては従来の７ｔｍビンディングの自然なパフォーマンスのほうが効果的です。
その際には、27. リリースハウジングから、1. トゥーピースを外し、29. パワーピンを押し出してから再び1. トゥーピースを取り付けてください。（図E）
再びパワーポジションに戻すときには、パワーピンの取り外しと同じ要領でピンを再装着してください。

8.4 凍結

ブーツソールに雪が付着するのを防止するために、1. トゥーピースにワックススプレーを散布する事をお勧めします。

8.5 ステップインヒールご使用上の注意

・①サポートバーの底棒と②スタンディングプレートの底面は必ず同じ高さの面にのるように設置してください。この位置関係が適切でないとステップインの機能が正しく働きません。③ライザープレートをご使用になる場合には、下図１のように①サポートバーの底棒と②スタンディングプレートの底面がともに③ライザープレートの後部にのるように③ライザープレートの位置を調節してください。
・「２. ブーツのビンディングへの取り付け」に従い、ブーツの大きさに合わせて④ヒールファスナーバーの取り付け位置を決定してください。
・ブーツの爪先部をビンディングのトゥーピースに差し込み、下図１のように⑤ステップインヒールにかかとを当ててください。そのままかかとを真下に強く踏み込むと、下図２のように装着していただけます。
・ビンディング装着後は、下図２の矢印通りに①サポートバーを上位置にセットしておくことをお勧めします。下図３のように別売りの⑥クライミングエイドを使用する場合にも、⑥クライミングエイドの位置の切り替えが容易に行えます。

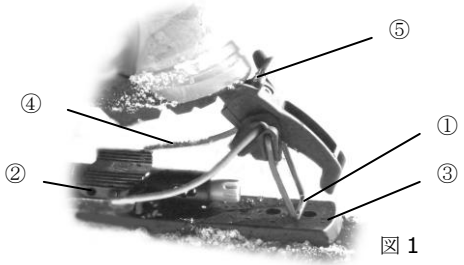


図１

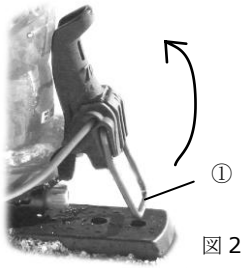


図２

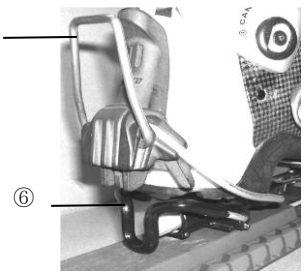


図３

9 メンテナンス／修理及び保管方法

７ｔｍスキービンディングは水のみを使用して洗浄して下さい。目に見えて汚れている場合を含め、少なくとも１シーズンに１回は洗浄して下さい。（注意：高圧洗浄機や化学薬品は使用しないで下さい）

9. テンションストラップは消耗部品ですので破損した場合は下記のガイドラインに従って交換して下さい。
・1. トゥーピースをビンディングから外します。
・17. 接続ネジをゆるめて下さい。
・図Kを参考に9. テンションストラップを抜いて下さい。新しいテンションストラップを差し込みます。
・17. 接続ネジを締めて接着剤で固定して下さい。

10 期限付き保証

７ｔｍはビンディングと付属品に対して１年間の保証をします。
素材の欠陥や製造上の不備によって製品がうまく機能しなかった場合、保証による交換が行われます。その場合、欠陥部品の交換の費用に関しては一切お客様には請求されません。

⚠警告

11. 安全性に関する警告と説明

7tm製品を使用するにあたり、雪崩、視認できる/できない障害物との衝突、普段と違う雪の状況、他の装備の不具合、天候の変化など、当社製品とは無関係に起こりうる重傷や死亡は、お客様の自己責任となります。

他のスポーツと同様にスキーも危険であるという事実を十分認識して下さい。 肉体的な損傷も発生します。7tmテレマークビンディングはスキーブーツ、ビンディング、スキー板から構成される装置の一部です。またドイツ国内および国際間の規格に適合しており、最先端技術によって最高の安全性を確保しています。それにもかかわらず、どんな場合においてもビンディングが解放される保証は有りません
。
7tmは、側方解放のみの機能を持つテレマークスキー用のビンディングです。かかとが板に固定されていないため、他のテレマークビンディングと同様に前方への解放機構は備えていません。したがって前方への激しい衝突で怪我、ビンディング固定ネジの破損、ビンディングの全壊などが起こる可能性があります。

また、ビンディングの解放、あるいは解放しないことによるスキーヤーの負傷に対しても保証できません。ビンディングはあくまで膝より下の脚部が負傷する危険性を軽減する手段に過ぎません。また、スキー中に起こり得る他のいかなる負傷の危険性をも低減させるものではありません。
・ビンディングは専門技術者によって組立て、調整してください。スキーヤー自身の責任の下で非認定技術者によって組立て、調整が行なわれれば保証は無効となります。
・正常な機能を維持するために勝手な調整は行わないで下さい。調整を必要とする時は必ず専門技術者が行って下さい。不適切な調整やメンテナンスは負傷する危険性を高めるだけです。
・欠陥や部品の欠落のチェックのみでなく、ビンディングが正常に作動するかどうかも毎回使用前に確かめて下さい。必要であれば専門技術者が修理をして下さい。破損したままのビンディングをご使用になると負傷する危険性は高まります。
・スキーヤーとしてこのスポーツの危険性を十分認識して下さい。専門知識や技術に沿うような滑り方や傾斜の選択を行って下さい。
・ルートの選択には十分注意して下さい。自分の技術力や健康状態を過信してはいけません。リフトがないようなところや、圧雪されていないバックカントリーツアーを行う場合は、予備のテンションストラップの携帯をお勧めします。
・スキー行楽地で掲示されている警告や注意に従って下さい。気象や雪崩の警告には特にご注意下さい。
・体調が良くない時、疲れている時、アルコールや薬を飲んでいる時はスキーをしないで下さい。
・汚れや長期の誤った保管方法によって、もしくはビンディングを長期間ご使用にならなかった場合は、ビンディングの解放値が変わる可能性があります。そのため、シーズン初め（もしくは６０日間の使用毎）には適切な計測機器を用いて専門技術者が解放値を検査して下さい。
・規格に適合していないブーツやソールが摩耗したブーツはビンディングの解放に影響を及ぼす可能性があります。したがって定期的に専門技術者が検査して下さい。
・ビンディングは必ず７ｔｍスキーリーシュもしくはスキーブレーキ（セーフティストラップ）とともにご使用ください。さもなければビンディングが解放された時に減速することなくスキー板が滑り落ちる可能性が有ります。これは周囲のスキーヤーにとって非常に危険です。
・深雪でスキーを行う場合は行方不明になったスキー板を探し出す事が出来るように深雪用のリーシュをつなげたスキーブレーキを必ず使用して下さい。もしも警告があるにも関らずセーフティストラップを付けたまま雪崩が起こりそうな場所に入り込んでしまった場合には、ビンディングおよび足からストラップを取り外して下さい。
・塩分やよごれでビンディングの機能を損なう可能性があるので、移動の際は必ずスキーを移動用の乗り物の中、もしくは密閉された容器の中へ入れて下さい。
・ビンディングの誤った使用（モノスキーで使用する、ビンディングやスキーブレーキの個々の部品を改造する等）は誤解放や解放しない危

険性が高くなります。
・取り付け用の部品やスペーサーはビンディングの機能に影響を与える可能性が有ります。したがって７ｔｍのアクセサリーのみを使用して下さい。組立ては作業説明書に基づいて認定専門技術者が行って下さい。

---

12 IASセルフ解放テスト

ＩＡＳはスキーヤー自身が適切に調整されたビンディングの解放量をセルフ解放テストを行う事によって定期的にチェックすることを推奨しています。このセルフ解放テストはスキー小売店によって行われた基礎調整に代わるものではありません。

側方解放：図Ｉ

注意：解放機構はプラスチックブーツとの組み合わせでのみ適切に作用します。ソフトレザーブーツを使用した場合は衝突／転倒の際に解放可能な適性トルクが伝わらない可能性が有ります。
まず、セルフ解放テストを行う前にビンディングは確実に中央部に戻り、汚れていない事を確かめて下さい。ゆっくりと慎重に足をねじってビンディングを横方向へ解放して下さい。
足をねじる際はスキー板を水平にして下さい。側方解放が出来ない場合はスキー板のエッジを下にしてテストして下さい。それでも解放出来ない場合は解放値を若干低くする必要があります。再調整後の数値が元の数値よりも１０％以上大きい場合は、再調整後のご使用開始前に必ずスキーショップでの調整を受けて下さい。解放値調整に全く関係が無く、再調整を行う事によって、予期せず誤解放したり解放しない危険性が増す可能性のある別のスキー板、ブーツ、ビンディングシステムがある可能性が有ります。 解放する力を強める／弱める為に調整する解放値は調整スケール⑯から読み取る事が出来ます。

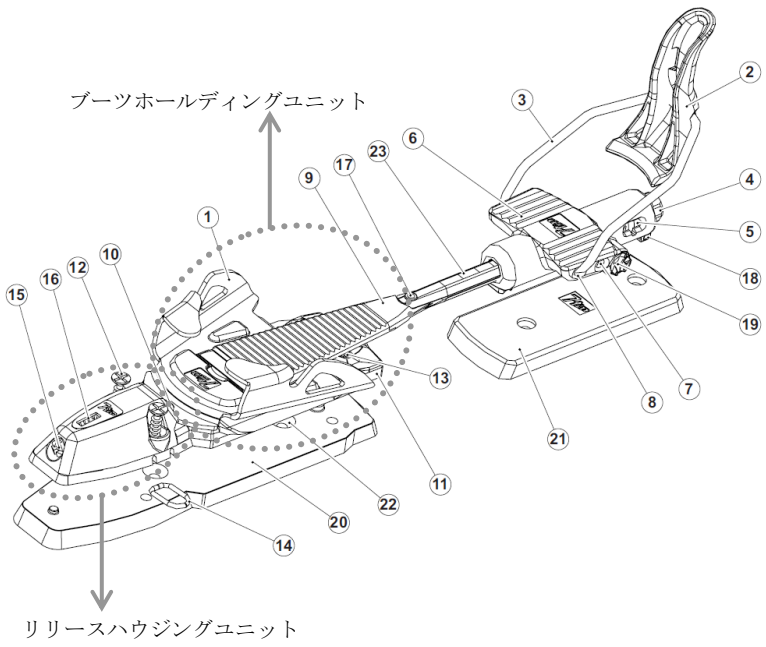
ＩＳＯ図解：図Ｊ

注意：７ｔｍビンディングは足の垂直軸（ねじる方向で）に関して前面衝撃による前方への力を受けた場合のみ解放します。他の方向へは解放しません！

7tmビンディングは、TUV PRODUCT SERVICE-MUNICH/GERMANYの行ったテストによってDIN/ISO 9426規格に適合することを承認されました。

各部の名称

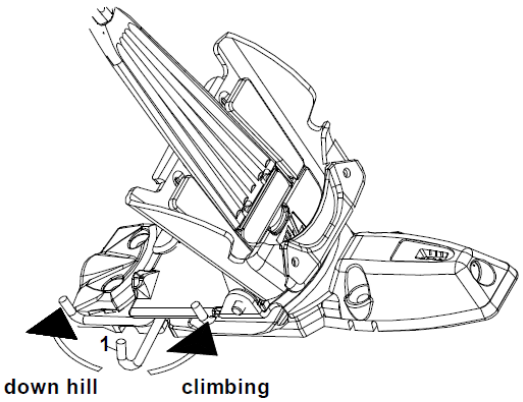
1　トゥーピース
2　ヒールファスナー
3　ヒールファスナーバー
4　ビンディング長さ調整ネジ
5　ビンディング圧力調整スケール
6　スタンディングプレート
7　ヒールファスナー標準取り付け位置
8　ヒールファスナーショート取り付け位置
9　テンションストラップ
10 ローラーカム
11 ホールディングブロック
12 前部ビンディング取り付け用ネジ
13 後部ビンディング取り付け用ネジ
14 スキーリーシュ用リング
15 解放値調整ネジ
16 解放値調整スケール
17 接続ネジ
18 ネジ止め用割ピン
19 クライミングエイド軸受け
20 ライザープレート 前部ーオプション
21 ライザープレート 後部ーオプション
22 ライザープレート取り付け用ネジーオプション
23 ビンディング長さ目盛り
24 スキーリーシュ
25 凍結防止キャップ
26 アップグレードプレート
27 リリースハウジング
28 プレッシャースプリング(内部)



パワービンディングオプション

29 パワーピン

ツアービンディングオプション
34 ツアービンディングベースプレート
35 回転軸、ナット
36 ロックレバー



【輸入発売元】 株式会社モンベル
〒550-0013 大阪市西区新町 2 丁目 2-2
●お問い合わせはカスタマーサービスまで
TEL/06-6531-3544 フリーコール/0088-22-0031
URL http://www.montbell.com